

# 大阪大学図書館報

Vol.23 No.1 Apr.1989(平成元年) 通巻96号

## 目 次

- |                             |      |
|-----------------------------|------|
| ○国際化時代の語学                   | ○会 議 |
| ○米国医学図書館視察報告(3)             | ○日 程 |
| -OPACおよびエンドユーザー検索           | ○人 事 |
| を中心に-                       |      |
| ○大阪大学学術雑誌データベースの追加機能と修正について |      |

## 国際化時代の語学

玉 井 俊 紀

いまに始まったことではないが、学校での外国語教育に対する風当たりが強い。話せるようにならない、というのである。(中等教育で外国語というと、ほとんどの場合、英語をさす。) 中学、高校と6年間、これに大学の4年を加えて都合10年間、細かい文法事項をつめこみ、重箱のすみをつつくように文章を読ませるだけで、話せるようになってくれない。そういう、文法、訳読中心の語学の授業、こんなモノいらぬ、とテレビが声高にあおる。しゃべっている人はどうやら英語の達人らしい。

まして、いまは国際化とやらの時代である。国際交流が目に見えて盛んになっているいま、学校は旧態依然、これから国際化社会に乗り出していこうとする若者たちにコミュニケーションができない英語を教えてよいのか、それで異文化の人々とうまくやっていけるのか。そういうことをテレビ文化人が言う。現実に生徒は話せるようにならないから、この意見は無視できない。見ている人は、学校で習ったはずの英語が自分の場合もほとんど役にたっていないのを考えあわせ、テレビで言っていることは本当だ、学校では役にたたない英語を教えている、と思ひこむ。思ひこむだけならまだしも、こんどは自分がそれを人に宣伝してまわる。

こうして、非難の声がまわりでだんだん大きくなっていく。語学教師は1学級の生徒の多さ、授業時間の少なさ、などマイナス要因をあげてはみるが、その声はか細くまわりの声にかき消されてしまう。よく聞いてみると、一方に「生きた役にたつ英語」「コミュニケーションのための英語」「国際化時代の英語」なる善玉があり、もう一方に「話せない英語」という悪玉があるという図式である。ひびきのよい言い方をしているが、要するに、話せる英

語と話せない英語、という対立らしい。しかし、語学教師はわざわざ話せるようにならない授業を心がけているわけではない。努力はしているが、いかんせん、結果として生徒は話せるようにならないのである。テレビ人士に指摘されるまでもなく、それでは困る。生徒には話せるようになってもらいたい。ただ、語学教師がテレビのにわか語学評論家と違うのは、これまでのやり方は悪であり、「話せるようになる授業」がそれにとって代わるべきだ、というような考え方を安易にしない点にある。長く続いてきた方法にはそれなりの意義があるはずである。それに、これは含みの多いことであるが、一人も話せるようにならないというわけではない。

話せる英語というが、いったい誰がいつ話すのか。文化人は、クラスの誰もがいますぐ話せるようになる授業をすべしと主張するのであろうか。ことばは生活の一部であるから、必要があれば、まわりが放っておいても人は身につける。学校のできがどんなに悪い生徒であっても、そのことばだけが話されていて日本語が使えないところで暮らすとなれば、やがては、そのことばで用を足すようになる。英語が身につかなくてもそ知らぬ顔をしていられるのは、日本の中学生にとって英語は生活の外にあるからである。実際、英語で用を足さない普通の生活ができないなどという中学生がいまの日本に大勢いるわけではない。となると、話せるようになる授業といっても、実は、やがて必要になったとき必要になった人が話せるようになる授業、を意味することになる。では、文化人は、生徒がどんなことを話せるようになれば満足するのであろうか。

文化人はこの点、控えめである。日常会話程度の英語ができればよい、という。日常会話とはなにをさすのか。日常会話程度の英語は話せるが普通の英語は話せないということがあるのだろうか。中学生の日常生活でのやりとりを観察していると、挨拶のことばを含めて決まり文句ですませていることが多い。おしゃべりはほとんど決まり文句から成り立っている。決まり文句には「おいしい」とか「くだらない」とかの単純な価値判断のことばもあれば、「荻野目洋子のCDを借りた」とか「阪神は今年も最下位か」とかの文もある。どれくらいの数になるか知らないが、なるべくたくさん、そういう決まった言い方を覚えれば、それで「日常会話程度」ということになるのだろうか。

丸暗記ですむのは自分限りである。相手が決まり文句で応じてくれなかったらどうするか。その場合でも、うろたえることはない。相手のことばがある程度わかれば、決まり文句集に登録されているはずの「ほんと?」「うそー!」「やだ、もう」「すっごい」などの、「あいの手ことば」を適当にはさんでいればよい。5分ぐらいは「会話」が続くだろう。そういえば、このあいだ、電車の吊り広告に、「英語がべらべらだと思わせる方法」というのがあった。およその見当はつく。「あいの手ことば」を相手のことばの合間合間にはさみこめるように練習する。なにか意見を求められることもあるから、応用のきく意見回避の文言をいくつか用意しておく。お膳立てはこれでよい。あとは相手がしゃべってくれる。5分ほどたったら、にっこりはほえんで「ハバナ椅子でィ」でしめくくろう。英語がべらべら、だと思われることうけあいである。しかし、そんなふうにしてべらべらだと思ってもらってどうだというのか。学ぼうとする基本姿勢に欠け、もちろん話す必要もないこういう手合いが、ガイジンと話したいなどという。英語の達人はまさかこういう生徒のめんどうをみてやれとは言わないだろう。

中学生はいつも荻野目洋子のCDを借りるわけではない。買うこともある。買い物をすれば、消費税とはこういうものかと実感することになる。阪神の最下位は法律で決まっているわけではないから、もしやと奇跡を期待する向きも当然ある。消費税だの阪神の奇跡だのを話題にし始めたら、もはや決まり文句のやりとりではすまないだろう。買い物、食事など場

を限ってみても、「日常会話程度」ではたちまち破綻をきたす。たとえばパソコンを買うとき店の人とどんなやりとりをするかシミュレートしてみたらいい。なにを言うかはその場で決まってくる。たいていは決まり文句集に書いてないことを話すことになる。覚えたことをそのまま暗記して言うのではないから、自分で語を選び、文を組み立てなければならない。おしゃべりであれ文化講演であれ、文を組み立てるしくみは同じである。その同じしくみを使って人はそれぞれ異なった語を選び異なった文を組み立てる。なにかものを言うことになったとき、人がどんな語を選びどんな文を組み立てるかは、つまり、ものごとをどのような道筋で考えるかは、その人がそれまでどんな語に接し、どんな文になじんできたかによるところが多い。

こんなふうを考えてくると、外国語の授業は、その外国語におけるものの考え方の可能性を学ぶための時間であることがわかるであろう。ことばを身につけるということは、装身具でひょいと身を飾るようなことではない。ことばの習得は、それが外国語であれ日本語であれ、すぐれて精神的な作用であり、生涯完成するということがない。極端に言えば、語を一つ知ることにももの考え方が変わっていくのである。

中学、高校で行われている、ああいう秩序だった学習は、いかにも地味である。「物事すべて手っとり早く」の時流には合わない。しかし、これは木の苗を育てるようなもので、いまずぐ実がなれと要求するのはせつかに過ぎる。しっかり育てないとおいしい実はない。教育にはもともとそういう一面がある。22歳の福澤諭吉は幕末の大阪で蘭学の学習を始めるがそれまで通訳に習ったり蘭医に習ったりとオランダ語をいわば手あたり次第かじっている。それが、適塾では2冊の文法書を学ぶことから学業が始まった。「初めて規則正しく書物を教えて貰いました」（『福翁自伝』岩波文庫）という諭吉のことばには、師である緒方洪庵に対する敬意と基本を学び得た感激の気持ちが読みとれる。恵まれた言語感覚をもっていたと思われる諭吉にしてこうである。達人ならぬ凡人であるわれわれは、なおのこと机に向かう時間を多くとらねばならない。

国際化時代の語学といっても特別の方法があるわけではない。習うそばからことばが口をついてでてくる、そういう意味の「話せるようになる授業」がどこかで出番を待っているなどと期待するのはまちがっている。話せるようになる、というのは、学習したことが一定の条件のもとで発動されることで、どちらかという付加価値的なことがらである。話せるようにならないのは、学習すべきことがきちんと学習されていないからであって、「文法、訳読」のせいではない。基本となる学習ができていないのである。たいくつだ、めんどうだと敬遠したくなったとき、敬遠してしまったのではことは始まらない。まず机に向かう。たっぷり時間をかけて文章をよむ。やがて辞書を引くのが楽しみになるだろう。話せる話せないをうんぬんするのはそれから遅くない、と思う。

(たまい としり 言語文化部教授)

## 米国医学図書館視察報告（3）

— OPACおよびエンドユーザー検索を中心に —

岩本速雄

### 1. はじめに

今回の鈴木分館長を団長とする米国の医学図書館視察で5つの大学の図書館を訪問して、各大学から共通に得た印象として、以下の点が挙げられる。

- (1) 医学図書館は大学のMedical CenterまたはHealth Science(s) Centerと呼ばれる建物の内部または近くに設けられ、いずれの場合も図書館は道路に接した位置にある。ワシントン大学(UW)、カリフォルニア大学ロスアンゼルス校(UCLA)およびシンシナティ大学(UC)の医学図書館はMedical CenterまたはHealth Science(s) Center内部のいくつかのフロアを占め、テキサス大学サンアントニオ校(UT)およびミシガン大学(UM)の医学図書館は独立の建物であった。
- (2) 学内に20~30におよぶ専門分野の図書館が散在するUW、UCLAおよびUMの医学図書館は大学のLibrary Systemの1部を構成し、UCの医学図書館は印刷物や各種メディアの制作と提供に関わる部門を統合したMedical Center Information and Communication(MCIC)の1部を構成している。
- (3) 5つの医学図書館の蔵書数は、図書館の創立年の違いもあって、UCの123,000冊からUCLAの437,000冊までさまざまであるが、逐次刊行物の現行受入数は、UCLAを除いて、3,000タイトル前後である。UCLAは7,000タイトルを受入れている。一方、これらの図書館の面積は8,000㎡以上である。

このことから明らかなように、書架スペース、閲覧スペース、職員スペースとも広く、ゆったりしている。専門職のスタッフは各自広々とした明るいガラス張りの部屋で執務をしている。職員の休憩のためのスタッフルームも日本では考えられないほど広く、テーブルやソファが並び、交代でコーヒーを飲んだり、本を読んだりしながら休憩している。
- (4) 職員数はUCの24名からUTの52名までヴァリエーションがあるが、5館の平均は40名である。うち専門職はUM 9名~UT 18名で、5館平均14.2名である。いずれの図書館も女性職員が圧倒的で、各自のパートを責任を持って、生き生きと働いている。UCを除き、Library Directorは皆女性であった。
- (5) 貸出デスクやレファレンス・デスクの近くや閲覧室内にはOPAC、miniMEDLINE、CD-ROM等の検索用の端末がずらりと並び、エンドユーザー検索が一般化していた。
- (6) いずれの大学もLearning Resource(s) Center(LRC)と呼ばれる部門を持っている。それぞれ名称や規模、サービス内容、図書館とのかかわり方はさまざまであるが、教育支援施設として、印刷物や模型、ビデオ、スライド、グラフィック、イラストレーション、コンパクト・ディスク等の情報コミュニケーション・メディアの制作と提供を行っている。いわゆるAV機器以外にマイクロ・コンピューター・ラボを備え、さらには臨床技術の習得もできるように設計されている。
- (7) OCLC等の目録端末やOPAC、miniMEDLINE、CD-ROM等の利用者用検索端末、LRCなど、新しい情報コミュニケーション・メディアの利用とは対照的に、歴史的な資料も大切にしている。いずれの図書館にもHistory of Medicineの部屋やRare Booksの部屋が設けられている。
- (8) 開館時間が長い。平日は朝8時前から深夜11時、12時まで開館している。週末は、例えばUCLAでは金曜日は夜9時まで、土曜日は朝9時から夕方5時までというように時間が短くなっている。さらに各館とも日曜日にも昼の12時または1時から夜8時、11時、12時まで開館している。ただし、レファレンス・デスクは各曜日とも数時間前に閉じられる。

さて、前号では福留医学情報課長がLRCを中心に報告しておられるので、私はOPACおよびデータベースのエンドユーザー検索を中心に報告したい。

## 2. OPAC : 利用者検索用オンライン目録

ワシントン大学 (UW) の Health Sciences Library and Information Center (HSLIC) を除き、各大学とも医学図書館には OPAC 端末が貸出・参考カウンターの近くや閲覧室壁面にいくつも並べられ、利用者が自分で大学の蔵書を検索している光景が見られた。UW でも 100 万タイトル以上の蔵書のうち 1979 年以降受入の図書と雑誌の全所蔵タイトルが入力されており、中央図書館の Suzzallo Library ほかいくつかの図書館ではこれらのタイトルの書誌・所蔵および貸出状況が検索できる。HSLIC にも近いうちに OPAC 端末が入る予定とのことであった。1990 年までには全学の全蔵書を入力する計画であるという。ここでは UCLA のシステムを紹介したい。

UCLA では 2 つのシステムが利用できる。1 つは ORION と呼ばれる UCLA 図書館情報システムで、もう 1 つは MELVYL と呼ばれるカリフォルニア大学全体のオンライン目録である。UCLA は 1983 年 9 月 1 日よりカード目録を凍結した。

ORION は以下のレコードを含んでいる。

- ・ 1977 年以降に受入れられ目録作成された図書
- ・ それ以前の遡及入力された図書
- ・ キャンパス内で現在受入れられている雑誌
- ・ 発注中または処理中の図書

利用者はレファレンス・デスクに申し出れば、発注中の図書が利用できるようになった時知らせてもらえるし、処理中の資料の至急整理を依頼できるようになっている。

ORION はまた UCLA の Biomedical Library 他いくつかの図書館のオンライン貸出システムとしても機能している。これらの図書館の所蔵する図書・雑誌の貸出状況は、ディスプレイ上に各タイトルの所蔵箇所とともに表示される。ただし、だれがその資料を借りているかといった利用者のプライバシーに属することは表示されない。

ORION は Reference Reading Room 内の公衆端末で検索することができるほか、研究室や自宅の端末やコンピュータからもアクセスできるとのことである。レファレンス・ライブラリアンは定期的に ORION のトレーニング・セッションを開いている。

主題による検索のために、Biomedical Library で用いられている Subject Headings の典拠リストが ORION 端末の近くに置いてある。

MELVYL オンライン目録のデータベースにはカリフォルニア大学の 9 つのキャンパスの図書館が所蔵する図書と雑誌のレコードが入力されている。ただし、MELVYL データベースは目下開発中であり、まだカリフォルニア大学の全図書館の蔵書のごく 1 部しか入力されていない。ORION に含まれる視聴覚資料や発注中または処理中の資料、より古い図書のレコードは含まれない。

ところで、Biomedical Library では MELVYL MEDLINE というシステムを開発している。これは米国国立医学図書館 (NLM) の MEDLINE データベースの最近 2~3 年分のデータを館内の MELVYL 端末で検索できるようにしたものであり、1988 年の末からはダイヤル・アップ・アクセスにより利用できるようになるとのことであった。このシステムは NLM の助成金により開発され、データベースのリース料はカリフォルニア大学の図書館が負担している。このデータベースの検索料は無料であり、図書館の開館中はいつでも利用できる。利用マニュアルが端末の近くに備えられ、検索法習得のためのコースが毎週図書館で開かれている。教員、職員、学生のグループのためのクラスも相談に応じて編成されている。

### 3. エンドユーザー検索

MEDLINE等のデータベースの検索は日本では図書館員等による代行検索が主流であるが、米国では利用者自身によるエンドユーザー検索が一般化していた。ここではUWの例を紹介したい。

UWのHealth Sciences Centerの2階にある図書館の入口を入ると、左手に貸出デスク右手にレファレンス・デスクがあり、正面奥にEnd-User Areaがある。End-User Areaには医学分野のデータベースの検索のための端末がいくつも並んでおり、Health Sciences Centerの教員、職員、学生が自分で検索できるようになっている。Compact Cambridge MEDLINE, Micromedex Computerized Clinical Information Systems, NurseSearch, PaperChaseおよびGrateful Medといった簡易な検索システムが用意されている。

Compact Cambridge MEDLINEはCambridge Scientific Abstracts社製のCD-ROMであり、検索は無料である。

Micromedex Computerized Clinical Information Systemsはコンパクト・ディスク上に蓄積された5つのファイルから成るフルテキストの薬物情報であり、検索は無料である。

NurseSearchはハード・ディスク上に蓄積された1986年以降の61の看護学雑誌に掲載された論文の書誌データベースであり、検索は無料である。

PaperChaseおよびGrateful Medはエンドユーザー用の検索ソフトであり、両システムとも1966年以降のMEDLINEの全ファイルへ直接オンラインでアクセスすることが可能である。検索は有料である。

これらのシステムを利用するにあたって、利用者は1日30分の検索時間を予約できる。それ以外は先着順に閉館1時間前まで利用できる。

これらのシステムを利用者自身で検索できるようにするため、トレーニング・セッションが頻繁に開かれている。また、各端末の横にはマニュアルが備えられており、どのエンドユーザー・システムについても利用者はその場で図書館員の援助を求めることができる。

### 4. おわりに

OPACについては今後わが国でも普及していくであろう。書誌情報やファクトデータ、全文データ等のエンドユーザー検索についてもCD-ROMの普及によりわが国でも実施する図書館が増えつつある。オンライン検索システムにおいても“user-friendly”なメニュー方式の採用等により、図書館員を介さなくても、利用者自身で検索できるようになるであろう。しかし、その場合でも図書館員の役割はなくならないと思われる。検索システムやデータベースの利用についての利用者へのトレーニング・セッションや検索中の利用者への援助がますます求められるであろうし、そのための力を図書館員は身につけなければならない。

新しく吹田地区に移転新館になる生命科学図書館ではOPAC端末とともにオンライン検索端末やCD-ROMを貸出・参考カウンターの近くに備え、エンドユーザー検索に移行する予定である。代行検索では年1500件を越える件数をもはや処理しきれないからである。

(いわもと はやお 医学情報課 雑誌情報掛長)

## 大阪大学学術雑誌データベースの追加機能と修正について

大型計算機センターの大阪大学学術雑誌データベースは昨年8月からご利用いただいておりますが、その後の改良点や修正した事柄についてお知らせします。

### I. イニシャルキーによる検索について。

例えば「Science」や「Engineering」のように、雑誌名中によくみられる語のみで誌名が成り立っている雑誌を検索するときは、ヒットした多数の雑誌を出力してそのなかから目でさがしださねばなりません。これを効率よく検索するためにイニシャルキーによる検索を開始しました。

イニシャルキーとは、雑誌名の先頭から順番にワードの頭文字を最高5文字までならべたものです。たとえば、「Journal of biological chemistry」は「JBC」となり、「Science」は「S」となります。このとき、「of」や「the」といった冠詞・前置詞・接続詞などの配列無視語は省きます。

イニシャルキーはCDという項目名のなかに記載しています。したがって、検索コマンドSEARCHのつぎにイれる項目名は「CD」となります。

このイニシャルキーにしても、これのみですべて可能というわけではありません。いわゆるノイズが多く含まれますので、その集合のなかで雑誌名中の語がなにがしのものという検索を行うと有効です。すなわち積集合を使った検索で対象を絞りこんでください。

```
ex. COMMAND? SEARCH CD EQ S ↵
      #01          247 RECORDS
      COMMAND? SEARCH DS EQ SCIENCE AND #1 ↵
      #02          3 RECORDS
      COMMAND? DIS 2 ↵
```

項目のCDのなかで、「INTI:」につづけてイニシャルキーを表示しています。ID番号での検索などと同じように、特定する度合いの強いこのイニシャルで検索すると絞りこみが早くて便利です。

### II. ISSNでの検索について。

ISSNは8桁の数字等で構成されていますが、通常4桁ごとに分割し間にハイフン「-」をいれています。これがあると系統的にトラブルを起こすため、ハイフンのない8桁の数字等に変更しています。従って、これを検索するときは次のようにハイフンなしで検索してください。

```
ex. COMMAND? SEARCH CD EQ 00368075 ↵
```

### III. その他のお知らせ。

システムで設定されていたストップワード(不要語)をなくしました。「NEW」や「WHO」や英字一字など、雑誌名などで必要なワードがストップワードとして指定されていたため、これをすべて解除しました。これにより若干ノイズが増えますが、ご了承願います。

更新頻度は月一回です。毎月初めに更新しています。そのため、月初めに利用できないときがありますが、ご了承ねがいます。このときにOULJコマンドを投入してシステムの起動をすると、ウェルカムメッセージのあと何もしないでSYSTEM?に戻ります。メッセージでお知らせしている日に再度コネクトしてください。通常は、翌日には検索できるよう作業しています。

◇◇◇ OPAC検索のための一口メモ ◇◇◇ No. 2

◎ 検索語とは。

書名中の語で検索するときなど、検索語のいれかたを間違えると0件となってしまいます。たとえば「量子力学概論」という書名するとき、「リョウシキガクガイロン」と書名すべてをいれたのではさがせません。このときは「リョウシ」と「リキガク」と「ガイロン」にわけて検索します。このことについて説明します。

検索語とは一つの単語からなりますので、欧文ではスペースで区切られたワードとなりますが、和文などのときは単語が不明確なのでつぎようになります。

単語として切り出す一大原則は「コトバとしての独立性を失わない範囲で、もっとも小さく分割された単位を一語として扱う」注1とされています。

たとえば「熱力学」と「生化学」では、「熱」と「力学」とにわかれ、また「生化学」は一語となります。

そして、人名の姓と名は分けて検索します。

この分離の仕方は利用者をもっとも間違いやすいところなので、図書の簡易検索では、二語からなる複合語についてシステムでカバーしています。すなわち「熱力学」を一語の検索語としても、「熱」と「力学」にシステムがわけて検索しています。したがって利用者はこの間違いに気付くことなく正当な検索結果を得ることができます。

注1 日本図書館研究会「目録編成規則」第2章ワカチガキ p. 118

■■■■ 会 議 ■■■■

豊中地区運営委員会

元. 3. 7 (火) 10:30~11:40 (本館・会議室)

報告事項：1. いちよう祭について。情報サービス課長から「いちよう祭」の展示内容について説明があった。2. その他。情報管理課長から昭和63年度は大規模大学における「大型コレクション」の予算配分がなかった旨報告があった。

協議事項：1. 平成元年度基本参考図書について。情報管理課長から資料に基づき説明があり、協議の結果承認された。2. 次期委員長の選出について。次期委員長の選考が行なわれ、法学部教授田中茂樹委員を選出した。3. 本館の将来計画について。事務部長から本館建物の増改築計画の経過説明があり、引き続き、情報サービス課長から資料に基づき本館の機能説明及び各階層の説明を行い、討議の結果、平成2年度新規概算要求事項として提出することが承認された。4. 不用図書の決定について。情報サービス課長から資料の不用図書



リストについて説明があり、討議の結果、関係学部への照会調査の上、不用図書として決定することになった。5. その他、図書館体系検討小委員会の委員選出について。情報管理課長から同小委員会の豊中地区委員の選出依頼があり、後日関係学部から選出委員を報告することになった。

### 分館長会議

元. 3.7 (火) 13:00~14:30 (本館 館長室)

報告事項：主要行事について。各分館長・事務部長から各種会議等の活動状況について報告があった。

協議事項：1. 平成元年度図書館事業費予算要求書（案）について。情報管理課長から資料に基づき各項目別に説明があり、審議の結果承認された。2. 平成2年度図書館新規概算要求事項（案）について。事務部長から資料に基づき、平成2年度は、生命科学図書館LRC等の設備、電動式書架及び本館増改築の事項を要求したい旨の説明があり、了承された。3. 学術情報システムへの対応について。OPACの現状、学内端末による検索システム等の利用状況のほか、これら検索システムの講習会の実施について報告があった。

### 図書館委員会

元. 3.7 (火) 15:00~16:30 (本館・会議室)

報告事項：1. 主要行事。各分館長及び事務部長から資料に基づき各種行事及び委員会の活動状況について報告があった。2. 奨学寄附金の受入について。事務部長から昨年8月後藤前図書館長より寄附金の贈与を受け中之島分館長に生命科学図書館開館記念となるものを選定するように一任された旨報告があった。3. 平成元年度予算について。事務部長から資料に基づき説明があった。

協議事項：1. 平成元年度図書館事業費予算要求書（案）について。情報管理課長から資料に基づき各事項別に説明があり、審議の結果承認された。2. 平成2年度図書館新規概算要求事項（案）について。事務部長から、資料により生命科学図書館LRC等の設備、電動式書架及び本館増改築を要求したい旨の説明があった。引き続き情報サービス課長から、本館増改築案について説明。審議の結果承認された。3. 学術情報システムへの対応について。事務部長からOPACの現状、学内端末による検索システム等の利用状況やこれら検索システムの講習会の実施について報告があり「目録のオンライン化」にむけ体系検討小委員会における了解事項が承認された。

### 中之島分館運営委員会

元. 2.2 (木) 15:00~17:00 (中之島分館会議室)

報告事項：1. 生命科学図書館および外国雑誌センター館について。

協議事項：1. 次期中之島分館長選考について。鈴木不二男教授（歯学部）が再選された。2. 諸規程の見直しについて。3. 中之島分館図書選定小委員会内規の見直しについて

## 中之島分館運営委員会

元. 3.1 (水) 15:00~17:00 (歯学部大会議室)

協議事項：1. 生命科学図書館資料費分担金による購入雑誌の選定について。2. 生命科学図書館平面計画について。

1については、原案通り了承された。2については、特別に、中之島分館運営委員以外の生命科学図書館ワーキンググループのメンバーの教授および、施設部から建築課長ほかの出席を求め、出席者の中で意見交換を行った。

## 吹田地区運営委員会

元. 2. 23 (木) 11:00~11:40 (吹田分館会議室)

協議事項：現分館長の任期満了（平成元年3月31日）にともなう次期分館長候補者の選考を「規程」に基づいて行った結果、工学部応用精密化学科笠井暢民教授が選出された。

2. OPACについて。吹田分館においても、OPACに移行することが承認された。

## 日程

|          |                         |            |
|----------|-------------------------|------------|
| 元. 2. 2  | 生命科学図書館ワーキング・グループ会合     | (中之島分館)    |
| 元. 2. 2  | 中之島分館運営委員会              | (中之島分館)    |
| 元. 2. 2  | 昭和63年度主題別研究集会           | (基礎工学部国際棟) |
| 元. 2. 8  | 図書館体系検討小委員会             | (本館)       |
| 元. 2. 14 | 科研費(試験研究)打合せ会           | (東京大学)     |
| 元. 2. 15 | 国立大学図書館協議会学術情報システム特別委員会 | (東京大学)     |
| 元. 2. 23 | 吹田分館運営委員会               | (吹田分館)     |
| 元. 3. 1  | 中之島分館運営委員会              | (中之島分館)    |
| 元. 3. 7  | 分館長会議                   | (本館)       |
| 元. 3. 7  | 豊中地区運営委員会               | (本館)       |
| 元. 3. 7  | 図書館委員会                  | (本館)       |
| 元. 3. 10 | 外国雑誌センター館会議             | (東京大学)     |
| 元. 3. 14 | 生命科学図書館ワーキング・グループ会合     | (中之島分館)    |

## 人事

## 館長の異動

中之島分館長

再任 鈴木不二男(歯学部 教授)元. 4. 1~3. 3. 31

吹田分館長 交替

任期満了 中西 義郎(工学部 教授)元. 3. 31

就任 笠井 暢民(工学部 教授)元. 4. 1. ~3. 3. 31

## 人事異動

| 異動前の所属・職名                 | 氏名     | 異動内容              | 発令年月日     |
|---------------------------|--------|-------------------|-----------|
|                           |        | (採用)              |           |
|                           | 高野 恵子  | 文部事務官情報管理課図書受入掛   | 元. 4. 1   |
|                           | 伊藤 裕紀  | “ “ 和書目録情報掛       | “         |
|                           | 今枝 文子  | “ 情報サービス課雑誌情報掛    | “         |
|                           | 大西 吉之  | 事務補佐員情報サービス課参考調査掛 | “         |
|                           | 藤本 武司  | “ “ 資料運用掛         | “         |
|                           | 木下 昌也  | “ “ “             | “         |
|                           | 清川 栄一  | “ “ “             | “         |
|                           | 清水 香里  | “ 医学情報課図書受入掛      | “         |
|                           | 石田 有希  | “ 吹田分館資料受入掛       | “         |
|                           | 安田 覚   | “ “ 資料運用掛         | “         |
|                           |        | (昇任)              |           |
| 情報サービス課長                  | 辻 武夫   | 山口大学附属図書館事務部長     | 元. 4. 1   |
| 情報管理課課長補佐                 | 伊藤 祐三  | 兵庫教育大学教務部図書課長     | “         |
|                           |        | (配置換)             |           |
| 事務部長                      | 浅野 次郎  | 京都大学附属図書館事務部長     | 元. 4. 1   |
| 名古屋大学附属図書館事務部長            | 坂東 瑞昭  | 事務部長              | “         |
| 九州大学附属図書館情報システム課長         | 袴田 次雄  | 情報サービス課長          | “         |
| 吹田分館目録掛長                  | 近藤 勝一  | 情報管理課洋書目録情報掛長     | “         |
| 医学情報課受入掛長                 | 泉 文雄   | 情報サービス課基礎工学情報掛長   | “         |
| “ 運用掛長                    | 谷田 功   | “ 理学情報掛長          | “         |
| “ 目録掛長                    | 石井 道悦  | 医学情報課図書受入掛長       | “         |
| “ 参考調査協力掛長                | 岩本 速雄  | “ 雑誌情報掛長          | “         |
| 情報管理課洋書目録掛長               | 小山 靖裕  | “ 資料運用掛長          | “         |
| 情報サービス課閲覧第二掛長             | 今井 義雄  | “ 参考調査掛長          | “         |
| 情報管理課庶務掛主任                | 児玉 良治  | 医学部庶務掛主任          | “         |
|                           |        | (転任)              |           |
| 兵庫教育大学教務部教務課<br>研究協力第一掛主任 | 森 梶 正則 | “ 庶務掛主任           | “         |
|                           |        | (併任)              |           |
| 情報管理課和漢書目録掛長              | 山下 進   | 吹田分館資料受入掛長        | “         |
|                           |        | (退職)              |           |
| 情報サービス課 閲覧第三掛長            | 清水 義子  |                   | 元. 3. 31. |
| 事務補佐員情報サービス課参考掛           | 樽岡 義幸  |                   | 元. 2. 28. |
| “ “ 閲覧第一掛                 | 乾 隆    |                   | “         |
| “ “ “                     | 広江 典雄  |                   | “         |
| “ “ “                     | 山本 佳樹  |                   | “         |
| “ 吹田分館運用掛                 | 大塚 学   |                   | “         |
| “ 情報管理課受入掛                | 真鍋 明子  |                   | 元. 3. 30. |
| “ 情報サービス課雑誌掛              | 杉原美千子  |                   | “         |
| “ 医学情報課受入掛                | 酒本 美穂  |                   | “         |
| “ “ 運用掛                   | 宇野 博志  |                   | “         |
| “ 吹田分館受入掛                 | 中村あけみ  |                   | “         |

## 掛名変更

平成元年4月1日付で下記の通り変更となった。

| 課名      | 現行の掛名   | 変更後の掛名  |
|---------|---------|---------|
| 情報管理課   | 庶務掛     |         |
|         | 会計掛     |         |
|         | 受入掛     | 図書受入掛   |
|         | 和漢書目録掛  | 和書目録情報掛 |
|         | 洋書目録掛   | 洋書目録情報掛 |
|         | 学術情報掛   | システム管理掛 |
| 情報サービス課 | 参考掛     | 参考調査掛   |
|         | 雑誌掛     | 雑誌情報掛   |
|         | 閲覧第一掛   | 資料運用掛   |
|         | 閲覧第二掛   | 基礎工学情報掛 |
|         | 閲覧第三掛   | 理学情報掛   |
| 医学情報課   | 受入掛     | 図書受入掛   |
|         | 目録掛     | 雑誌情報掛   |
|         | 運用掛     | 資料運用掛   |
|         | 参考調査協力掛 | 参考調査掛   |
| 吹田分館    | 受入掛     | 資料受入掛   |
|         | 目録掛     | 目録情報掛   |
|         | 運用掛     | 資料運用掛   |